

「岐阜アートギャザリング」きょう開幕

気鋭作家の作品集結

気鋭の美術家の作品が岐阜の街に集結。岐阜市と東京都豊島区の都市間交流の一環として、同区主催の公募展入選作家から厳選した作品を集めて初開催する「岐阜アートギャザリング2022」が11日、同市内

3会場で開幕する。1960年〜96年生まれの作家10人の平面・立体作品46点が並び、実行委員会事務局の柳ヶ瀬画廊学芸員市川瑛子さんは「これほどの実力派がそろつのは貴重」と話す。27日まで。(大堀瑠美)

豊島区は、中津川市出身の洋画家熊谷守一の作品を集めた美術館が区内にある縁もあり、岐阜市と美術品の交流展示を行うなど連携を深めている。同区では毎年、アートイベント「池袋モナルナス回遊美術館」を開催、そのメイン企画が「池袋アートギャザリング公募展 IAG AWARDS」。今回、同展入選作家約100人から実行委員会が選抜した作家の近作を展示する。日本画、洋画のほか、彫刻、映像まで多彩な顔ぶれだ。

岐阜市内3会場が舞台

池袋公募展
入選の10人

◆参加作家◆

カワゐマユラ (版画)
北浦雄大 (漆工芸)
志茂浩和 (映像)
田村幸帆 (日本画)
中島淳志 (水墨画)
長谷部勇人 (自作楽器)
平松嵩児 (彫刻)
村田茜 (日本画)
八木恵子 (日本画)
渡邊綾乃 (油彩画)

彫刻を出品する平松嵩児さん。「岐阜の皆さんに作品を見ていただけるいい機会」と話す。岐阜市柳ヶ瀬通、柳ヶ瀬画廊

促す狙いもある。十六銀行の担当者は「駅前の利便性もあり来店者などに広く見てもらえて、美術の裾野が広がる」。岐阜信用金庫の担当者も「多くの人が会場から会場へと歩くのが会場から会場へと歩

き、作品を鑑賞することで文化振興につながれば」と期待する。柳ヶ瀬画廊に展示する作家の一人、彫刻家平松嵩児さん(25)は三重県は愛知県一宮市出身。流木やテラコッタで不完全な動物の頭部などをかたどる作品を出品し、「岐阜の古風な街並みは自分の作品の雰囲気合う。岐阜で披露できうれしい」と喜ぶ。平松さんと北浦雄大さん、長谷部勇人さんの立体作品は、加藤栄三・東一記念美術館(岐阜市大宮町)でも展示する。

市川さんは「岐阜ではなかなか見られない作家の作品ばかり。お気に入りの作家を見つけてもらうとともに、岐阜の魅力を再発見してほしい」と話している。



志茂浩和「雨の碑」
(2020年)



中島淳志「ゼウス神殿」
30.5×22.0センチ(2022年)

